

軽乗用車と土木建設機械によって 積み上がっている鉱工業在庫の動向

～在庫と在庫率の解説を添えて～

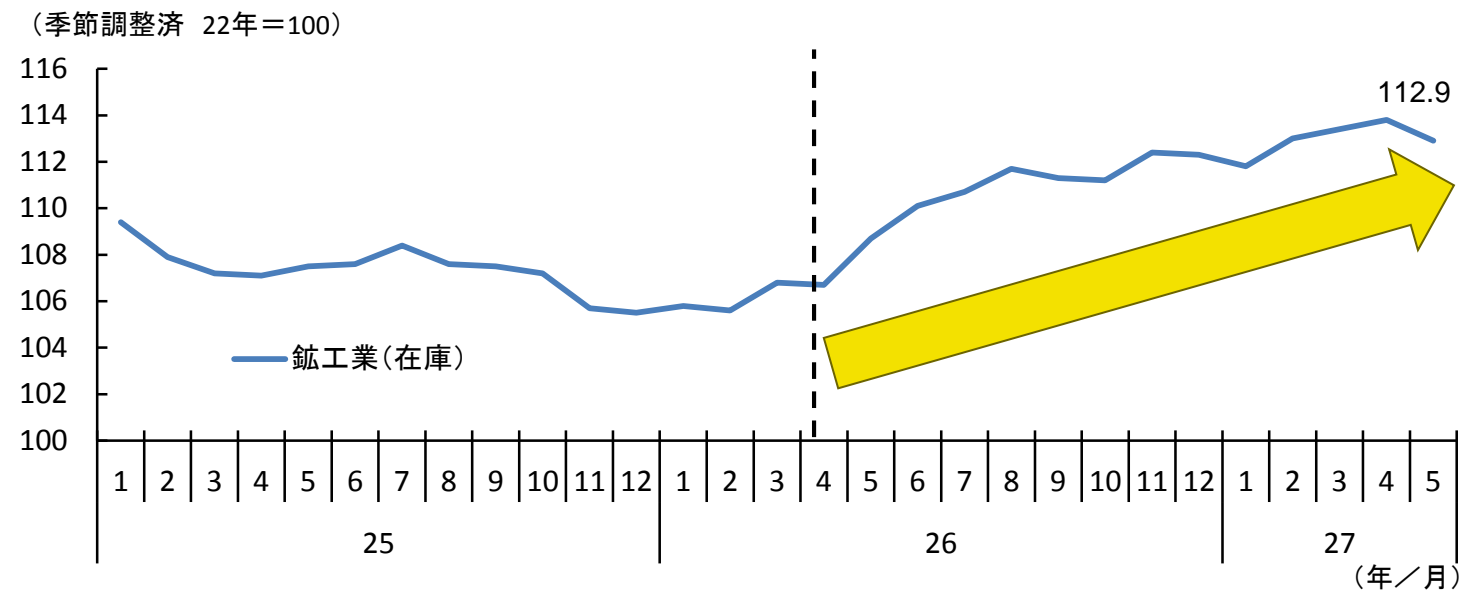
2015年7月
経済解析室

≡ 二 経済分析URL:

[http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/
report/minikeizai-result-1.html](http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai-result-1.html)

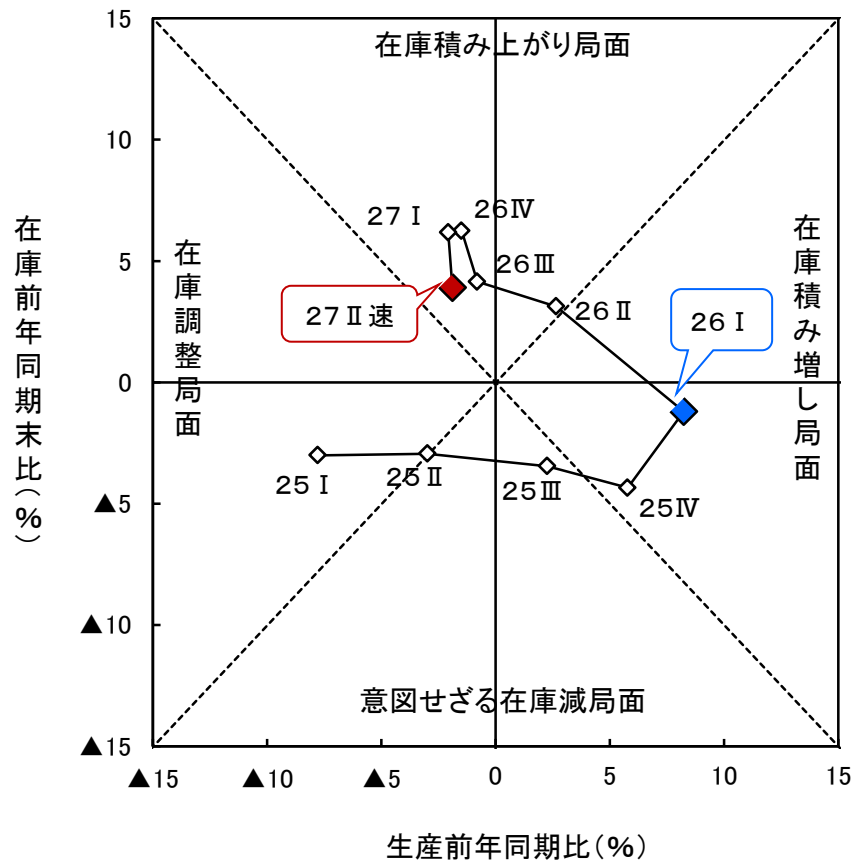
鋁工業の在庫状況

鋁工業全体の在庫（指数）は、消費税が引上げられた平成26年4月以降、上昇を続けている。



資料: 鋁工業指数(経済産業省)

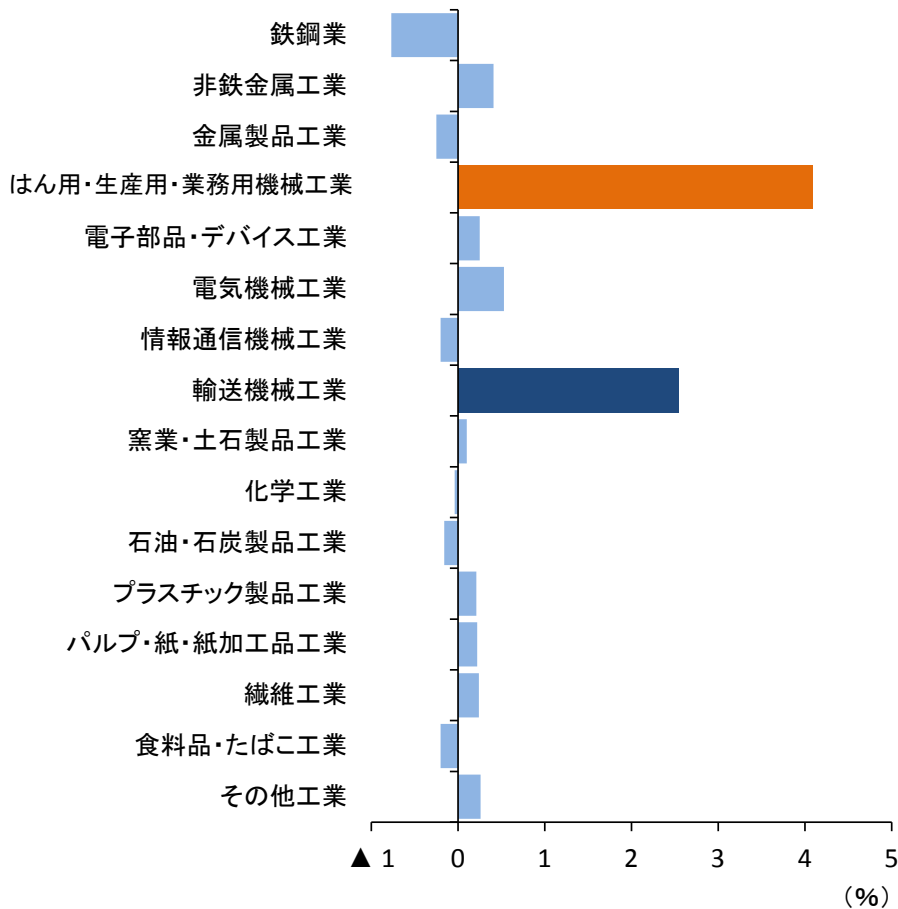
鋁工業の在庫循環



鋁工業生産と在庫の関係から
在庫水準の評価を行う
在庫循環図でも、
平成26年I期以降在庫は
増加し、在庫積み上がり局面
へと移行していくのが分かる。

資料: 鋁工業指数(経済産業省)

業種別の在庫上昇寄与の状況



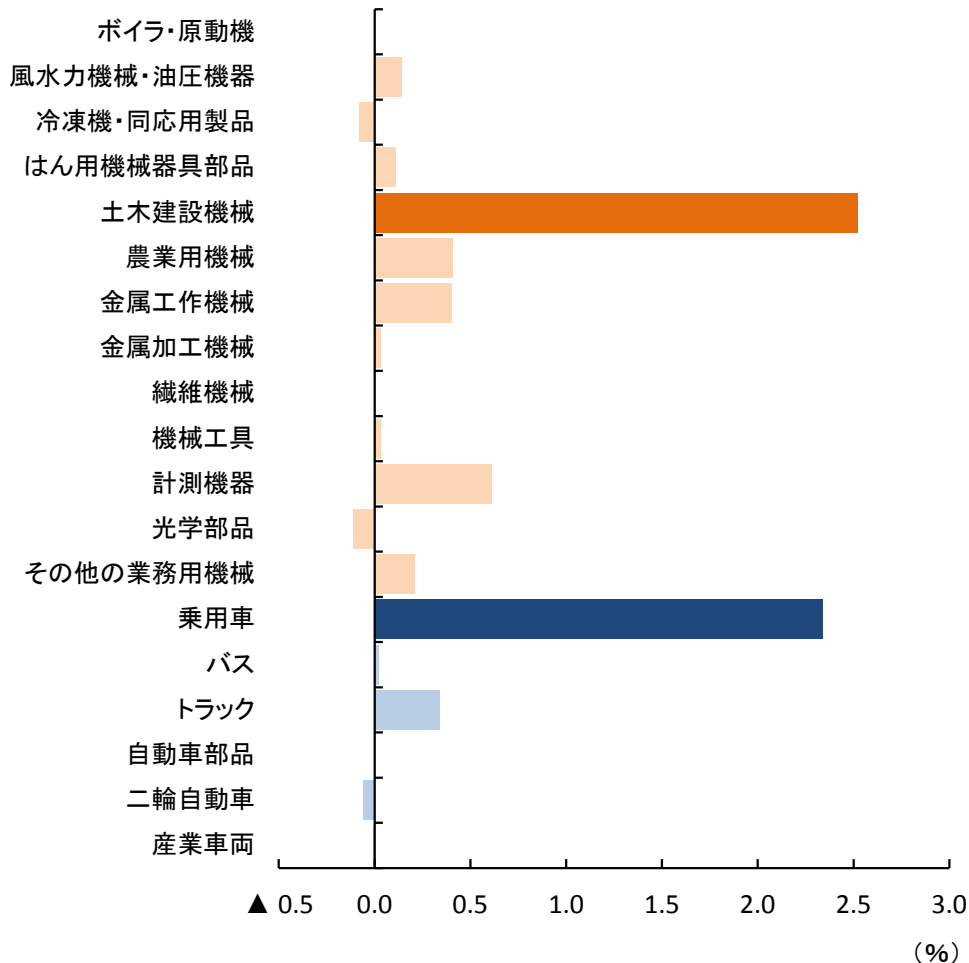
平成26年I期から27年5月までの在庫の伸びについて、業種ごとの影響度をみると、横ばいや微増、微減の業種が大半。

その中で、はん用・生産用・業務用機械工業と、輸送機械工業の2業種によって、在庫が積み上がっている。

資料: 鉱工業指数(経済産業省)

(注)平成26年I期と平成27年4~5月の平均値とを比較して伸びを算出。

はん用・生産用・業務用機械工業と輸送機械工業の 在庫上昇寄与の状況 ～細分類業種別～



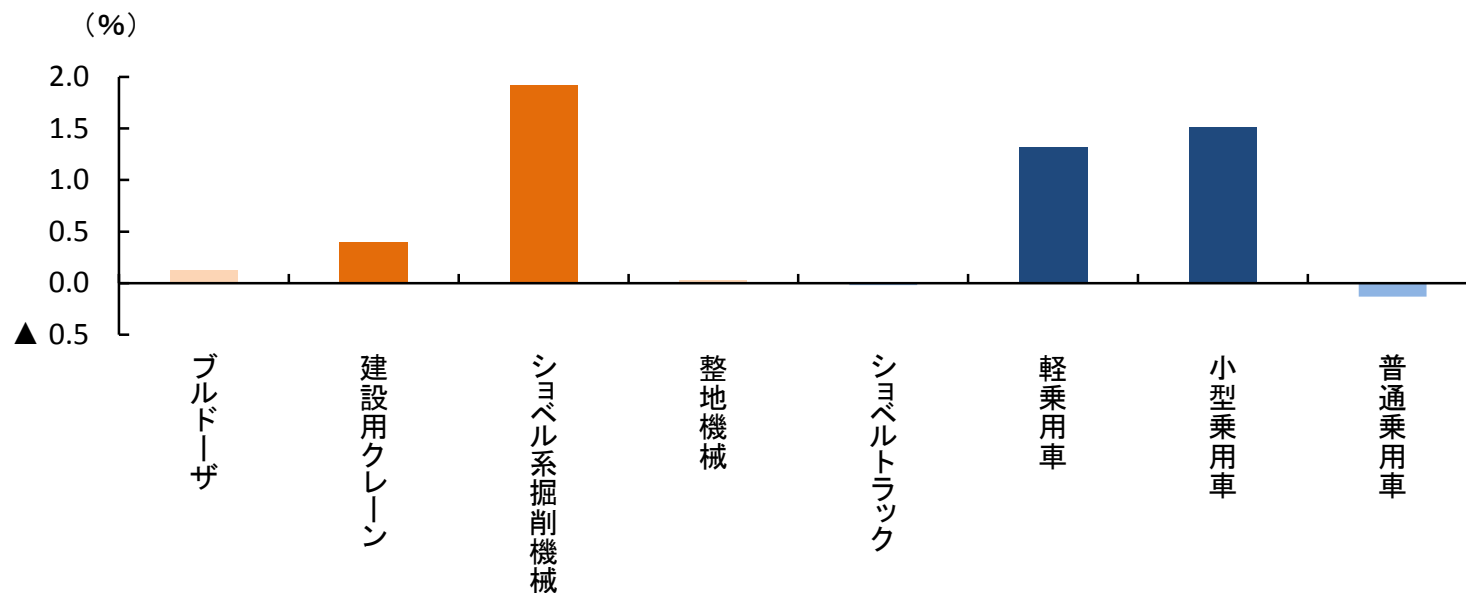
そしてこの2業種の中でも、
細分類をみると土木建設機
械と乗用車の2種が、
他のものとは比べ大きく在庫を
積み上げている。

資料：鉱工業指数(経済産業省)

(注)平成26年I期と平成27年4～5月の平均値とを比較して伸びを算出。

土木建設機械と乗用車の在庫状況

さらにこの2つの細分類に属する品目について、平成26年I期からの伸びをみると、ショベル系掘削機械、小型乗用車、軽乗用車、建設用クレーンの4品目の在庫が積み上がっている。



資料: 鉱工業指数(経済産業省)

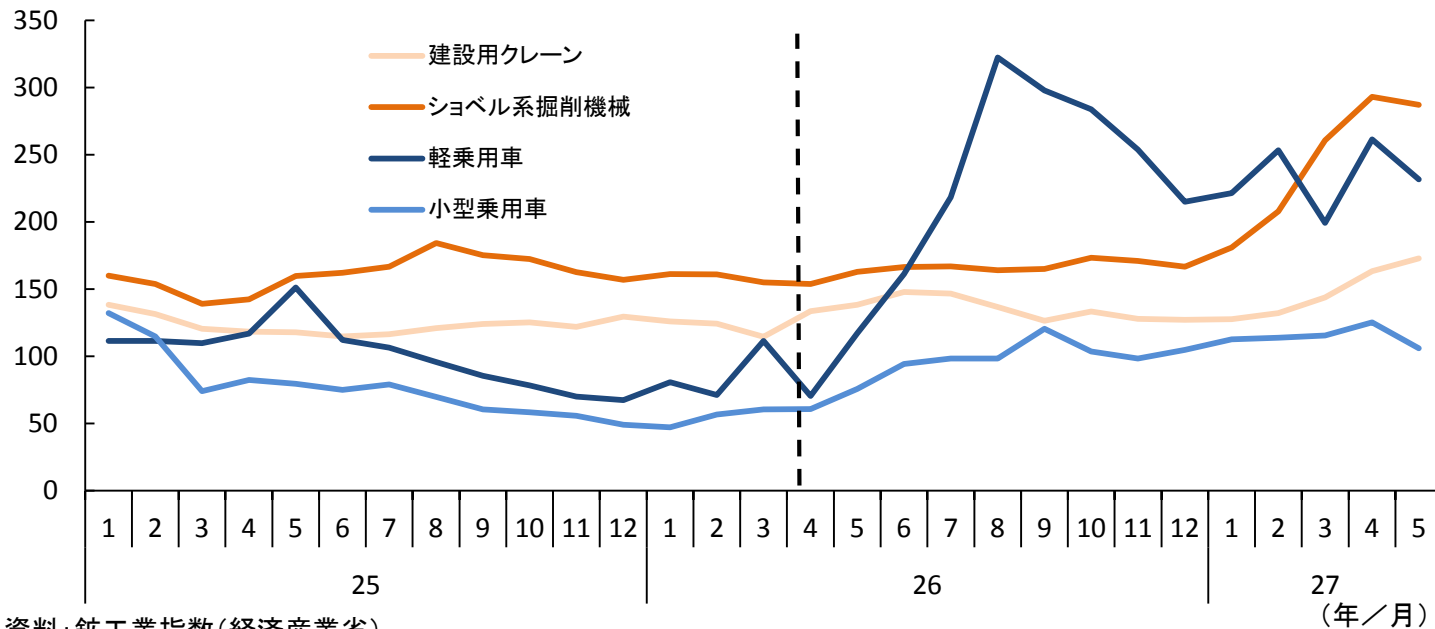
(注) 平成26年I期と平成27年4~5月の平均値とを比較して伸びを算出。

品目別の在庫が積み上がり始めたタイミング

この4品目の在庫が積み上がり始めた時期については、軽乗用車は昨年4月から。

また、ショベル系掘削機は今年1月から積み上がり始めている。

(22年=100、季節調整済)



資料: 鉱工業指数(経済産業省)

在庫積み上がりの背景 ~土木建設機械~

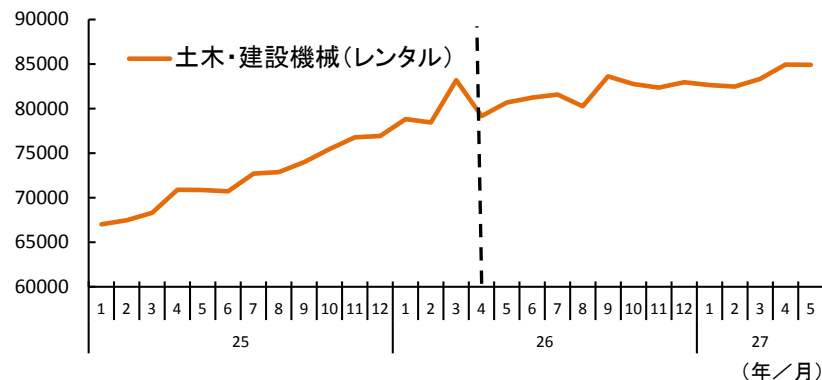
土木建設機械の場合

背景となる建設業の動向について、確認する。

- 特定サービス産業動態統計で見ると、物品賃貸業の土木・建設機械レンタルは伸びている。

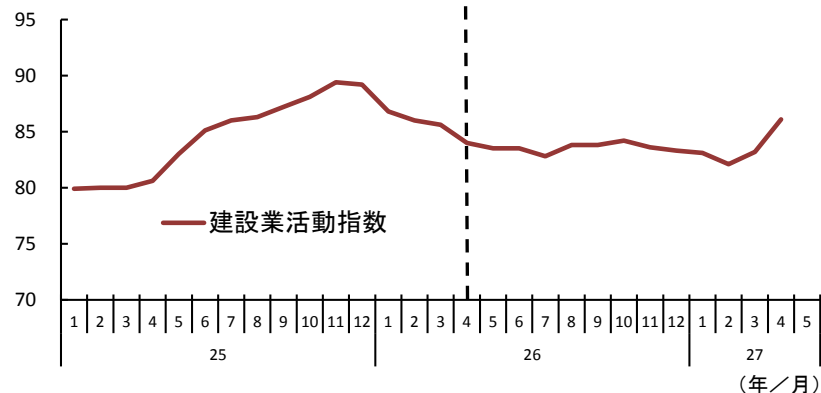
- 建設業全体の活動状況を示す建設業活動指数でも、昨年未までは公共土木が堅調であったし、年が明けた27年からは民需も回復している。こうしたことから、土木建設の需要はあることが見込まれる。

(季節調整済 単位:百万円)



資料: 特定サービス産業動態統計(経済産業省)

(季節調整済 平成22年=100)

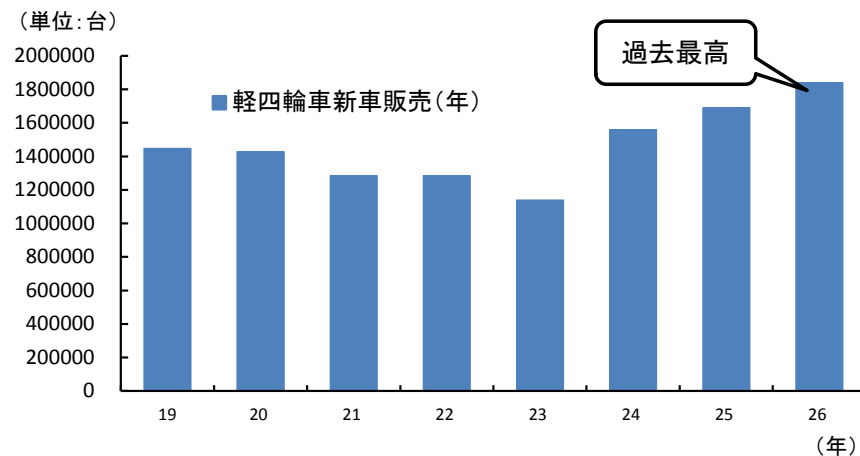


資料: 全産業活動指数(経済産業省)

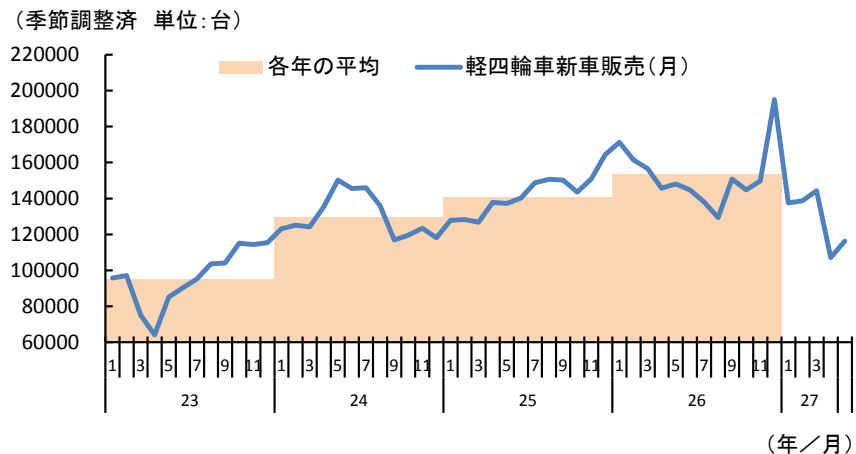
在庫積み上がりの背景 ～軽乗用車～

軽乗用車の場合

- 軽乗用車は、販売が好調であった。
平成26年は、過去最高の販売を記録した。
- しかし、月次の動向をみると、7月に入って販売は急落。そして昨年中は「売れる以上に生産」している状態であった。
さらに、今年に入って急に販売が落ち込み、在庫が積み上がった。



資料:一般社団法人 全国軽自動車協会連合会

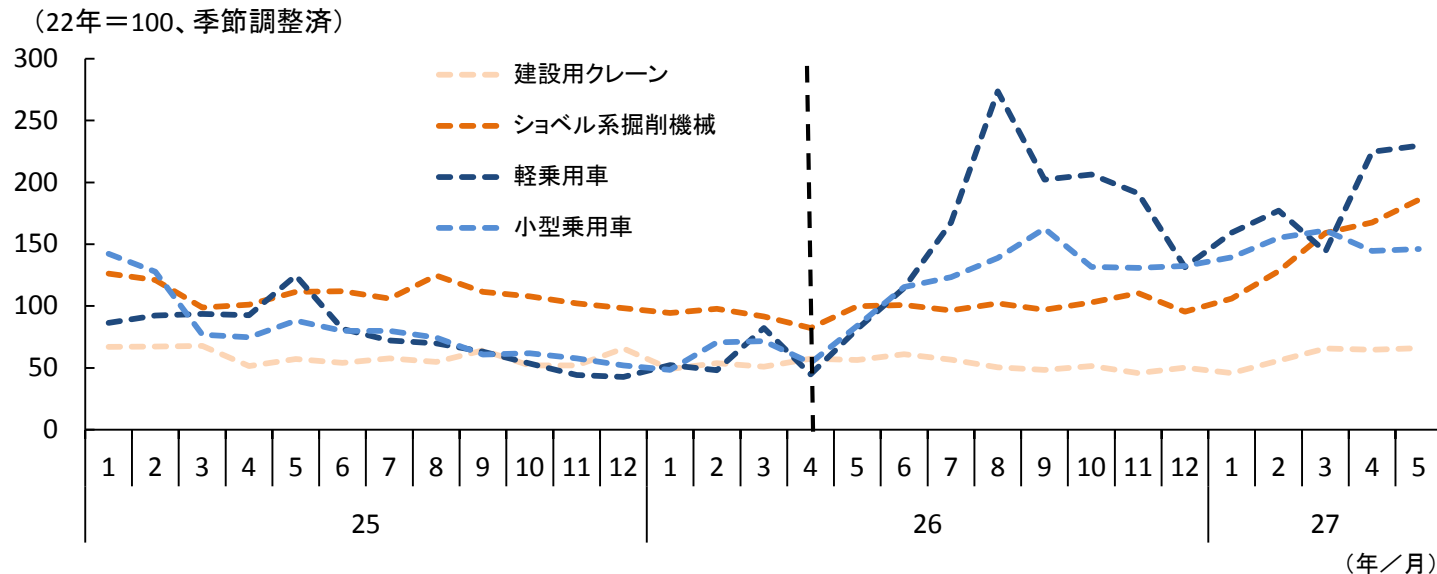


資料:一般社団法人 全国軽自動車協会連合会

軽乗用車の高さ、そして建設用クレーンの低さが際立つ在庫率指数

このように、在庫が積み上がっている状況においても、品目によって出荷や需要の動向は一様ではない。

出荷と在庫の動きを整理し、連動させて指標化したのが、“在庫率指数”である。先ほどの4品目の在庫率指数をみると、在庫指数とは異なる動きをしている。軽乗用車の高さ、そして建設用クレーンの低さが際立つ。



資料: 鉱工業指数(経済産業省)

在庫率指数から分かること(メリット)

一般的に、在庫は低い方が望ましい。
しかし、「高い」水準の在庫であっても、出荷との関係で評価は異なる。

在庫率指数は、在庫／出荷で求めた在庫率を指数化したもの。在庫水準が低下していても、在庫率が高ければ、在庫の低下以上に出荷が低下し、需給バランスが悪化していることを示す。

同様に、在庫が上昇していても、在庫率が低ければ、需給バランスは改善しているため、経済的に悪い状態ということにはならない。

	在庫率 低	在庫率 高
在庫 低下	在庫が低くなり、需給改善方向。	在庫は低いが、需給悪化。さらなる在庫削減の可能性も。
在庫 上昇	在庫は高いが、需給改善方向。在庫調整が求められる状況とは限らない。	在庫が高く、需給悪化方向。

→ 在庫低下のときの高在庫率、在庫上昇のときの低在庫率は、在庫水準だけで経済状態を評価すべきでないことの「印」。
在庫率も併用して評価を！

土木建設機械の在庫率の動きの背景

建設需要が好調だったことから、土木建設機械の出荷は好調だった。
そのため、在庫指数が高い状態であっても在庫率指数は上昇せず、特に建設用クレーンの在庫率は低い状態。

さらに、ショベル系掘削機の在庫・在庫率が今年に入って上昇したことには、「オフロード規制」対策で「作りだめ」対応をしているという特殊な事情が作用している。



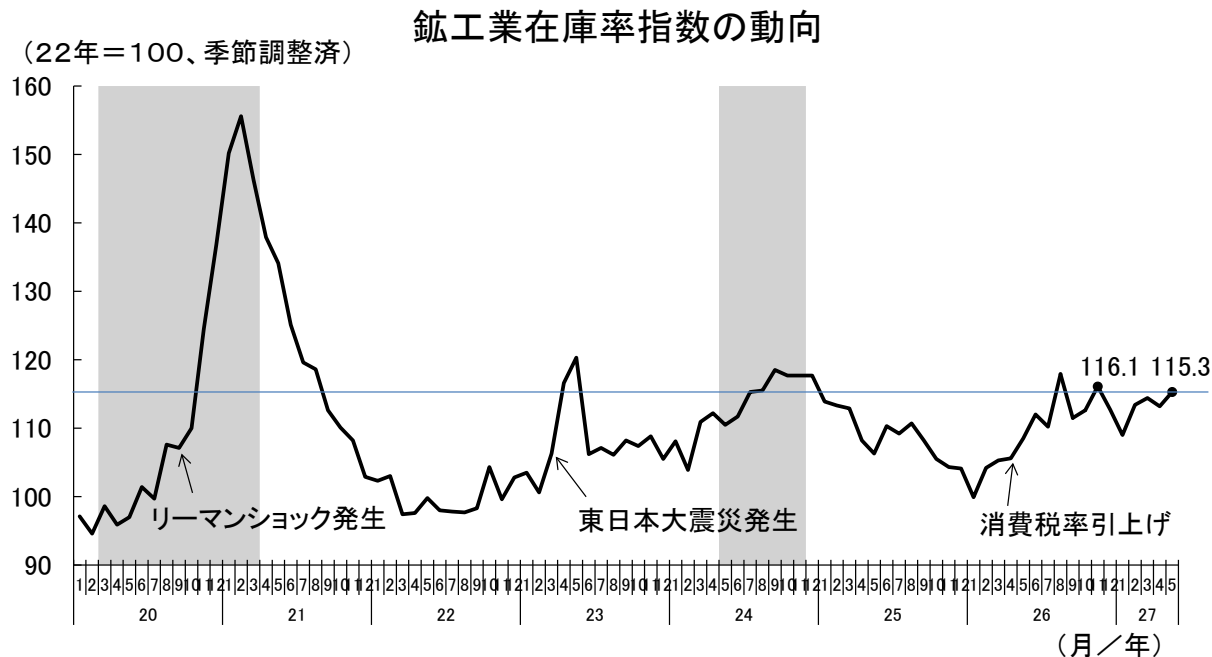
【環境省HP】

http://www.env.go.jp/air/car/tokutei_law.html

まとめ ～在庫水準に加えて在庫率も～

直近の鉱工業指数の在庫水準が高いのは、特定の品目が強く影響していた。
とはいえ、在庫の積み上がりといっても、品目によって、在庫率の状況が異なり、
在庫水準だけでの評価はできない。

こうした出荷と在庫の需給バランスは、“**在庫率指数**”によって確認できる。

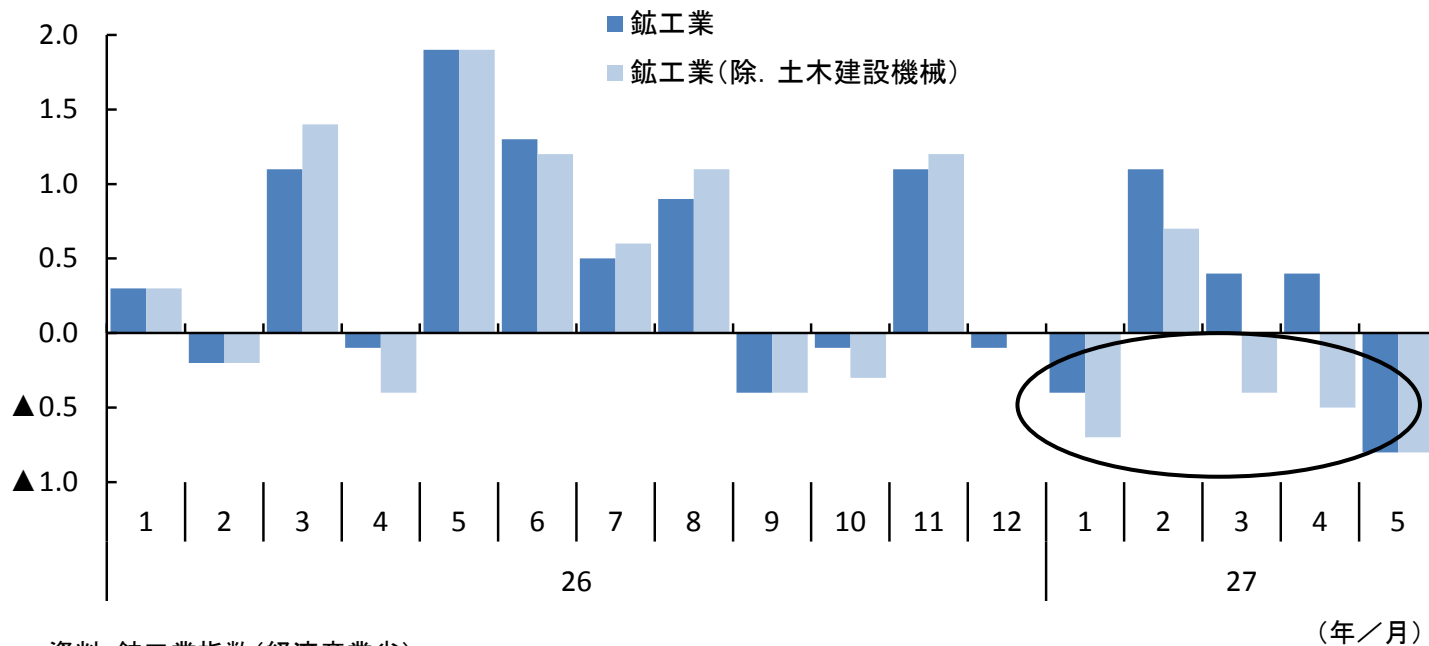


(注)シャド一部分は景気後退局面。24年5月～11月は暫定。

まとめ ～ 鉱工業全体～

現在の在庫水準は、歴史的にみて極端に高い状態ではない。また、特殊要因のある土木建設機械を除外した在庫指数を試算すると、年明けから低下してきている。ただし、在庫率は景気後退局面のレベルになってきていることに留意。

(%) (季節調整済 前月比 22年=100)



資料: 鉱工業指数 (経済産業省)